

インタビュー：常磐自動車道の整備を実感



一般社団法人
東北経済連合会
会長

ますこ じろう
増子 次郎氏

常磐自動車道開通に向けた歩みを紐解きますと、東北経済連合会は、1986年に「第四次全国総合開発計画」に対する提言を行っていますが、その中で「首都圏一極集中の是正に向けた基盤整備のあり方」を掲げ、その具体策として、高速交通体系における「常磐・三陸沿岸縦貫自動車道(いわき～仙台～宮古～青森)」の整備を要望しました。その後、1987年の第四次全国総合開発計画策定を機に、福島県いわき市から宮城県仙台市までの区間が新たに計画路線に指定されます。こうして整備が進む中、2011年に東日本大震災が発生し、常磐自動車道も甚大な被害を受けました。しかしながら、迅速な道路啓開等により早期に復旧が完了し、整備完了区間においては緊急自動車の通行など災害対策としても、この道路は重要な役割を果たします。こうした苦難を乗り越え、常磐自動車道は2015年に待望の全線開通を迎えました。

以降、常磐自動車道は東北の太平洋側のネットワークを支える重要な幹線道路として、その存在は近年ますます大きくなっています。防災面においては、津波浸水区域よりも高台を通過する道路となるなど緊急時の「命の道」の機能が強化され、災害に強い国土づくりに向けた役割を担っています。地域経済面では、企業立地や工場の新増設により、整備後の設備投資額が約2,300億円を記録し、沿線地域の求人倍率は全国平均を大きく上回りました。さらに今後は、道路の四車線化による機能強化、小名浜道路の整備による小名浜港へのアクセス向上、加えてF-REIを中核拠点とした福島イノベーション・コースト構想による産業集積が進むなど、地域にさらなる効果をもたらすことが期待されます。

このように常磐自動車道は10年の時を経て、従来の交通量に基づいた費用便益費による事業評価手法では計りえない様々な効果をもたらしていることを力強く示してきました。当会では、こうした交通ネットワーク整備に伴う「ストック効果」に着目し、今後も地域のエッセンシャルネットワークの整備に向けて、その重要性を広く訴えかけていきます。これからも常磐自動車道が多方面で効果を発揮し、三陸沿岸道路とともに太平洋側を結ぶ大動脈として東北経済の発展に大きく寄与することを期待しています。

コラム：常磐自動車道のある風景

常磐自動車道に関連する道路のさまざまな風景を、写真とともにご紹介します。

柏IC
桜並木



つくばJCT



友部SA(上り)
施設内部の枯山水



中郷SA(下り)
野口雨情の13個の歌碑



南相馬鹿島SA



鳥の海PA

